

今年度は若者へのヒアリング並びに、枚方市、吹田市、とよなか若者地域サポートステーション、NPO法人パノラマ、NPO法人サンカクシャへ視察を行い、居場所支援や就労支援に関する知見を得た。これらを踏まえて議論を行い、成果と併せて本会議にて今後の方向性を報告する。

■論点整理(視察や日頃の実践を踏まえて部会にて議論したこと)

(1) 居場所事業・就労支援における既存資源の整理

既存の居場所事業は常設型・非常設型ともにエリア・頻度が限定的である。

就労体験先開拓は各機関が一定取り組んでいる実績があるが、情報共有はなされていない。

(2) 居場所に求める機能の整理

常設型と非常設型の比較。居場所事業を実施するに際して必須条件及び付帯条件は何か。

若者が感じる「安心感」はを構成する要素(支援者の関わり・環境・関係性など)について

⇒箕面市居場所開発モデルの提案

(3) 就労体験先開拓の手法について

開拓手法は仕組みではなく個人的繋がりが有力 ⇒就労体験先の情報共有の場の検討

(4) 子ども若者年代にどうリーチするか(情報発信)

支援機関が待つ「プル型」ではなく、SNS、地域、家族、公的機関など、あらゆる接点に支援への橋渡し機能(蜘蛛の糸)を組み込む多層的なアプローチを論点とする。

(5) その他、部会で議論された事項

若者および世帯丸ごと支援／『ポスト学齢期』の空白／効果指標(評価の在り方)の課題

／若者の意見表明と社会参画

■今年度の成果

- ・箕面営業室所管の「就職支援講座」の最終日に相談ブースを設置(らいとぴあ21が対応予定)。
- ・就労体験先の情報共有の場を設定(3/2開催予定)。
- ・『ひとりて悩まないで』チラシにツラツラインや生活相談窓口など若者が相談可能な窓口を掲載。
- ・『20のつどい』配布物にツラツライン掲載。
- ・阪急箕面セン(石橋阪大前～箕面)にツラツラインポスター・カード設置(26年1月中)。



■26年度具体的検討・実施事項

- ①実務者会議に所属する機関の各種支援を利用している若者がニーズに合わせて他機関の支援を相互利用できるよう検討する。
- ②市立施設を活用した居場所支援及び就労支援を検討する。
- ③中学卒業後、それぞれの課題にあわせて各機関が高校年代においても引き続き対応しているが、不登校もしくは不登校傾向にある「中学3年生の生徒」は、学校と各関係系・機関とが情報共有することを検討する。併せて各相談窓口や支援サービス等のセーフティーネットから抜け落ちない体制を検討する。
- ④中学卒業後、それぞれの課題にあわせて各機関が高校年代においても引き続き対応しているが、高校生年代以降で新たに支援すべき対象となった場合、特例措置として、どのような課題があるか等調査し、相談やサービスの拡充可能性について検証する。
- ⑤商業施設等にて巡回相談を通じて若者と信頼関係を築き、ニーズや社会に対する不満を聞き出し、市長に対する意見表明につなげていくことを検討する。
- ⑥箕面営業室所管の就労支援セミナーの一部を関係機関等の意見を踏まえ、若者向け、特に高校中退者や早期離職者向けに実施・検討する。
- ⑦国際交流協会の日本語教室スタッフを就労体験の場として活用することを検討・実施する。
- ⑧対象を限定した居場所及び対象を限定しない居場所について、さらに検討する。
- ⑨「効果評価の在り方検討部会」を設置し、箕面市独自の評価指標を策定する。